

2025 年 6 月 24 日

学校法人三幸学園
大阪医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 平松 敏機 殿

学校関係者評価委員会
委員長 岡田 智之

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 岡田 智之 （社会福祉法人 邦寿会高殿苑 施設長）
- ② 米田 莉玖 （卒業生）
- ③ 堤 隆太 （飛鳥未来高等学校 教頭）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 24 日（会場 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校 202 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

4 自己評価期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石橋 亜希子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 岡田智之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

少子化・大学進学率の増加など外的要因も考えられるが、入学者が減少していることが大きな課題である。職業の魅力をしっかりと周知することで、入学者の増加を目標とした。2025年度入学者については、外国人留学生の入学者増加に成功した。今後、入学した留学生に良い教育を提供すること、必要な資格を取得させることができ、希望に叶った就職に就かせることができ、卒業後の進路サポートをすることにより安定した留学生募集を継続したい。

また、時代変化にともない通信制高校を選択する高校生が増加し、本校に入学する新入生の中でも通信制高校出身者が年々増加している。今後さらなる多様性を尊重し、個別最適化した教育の提供と学生と社会と繋ぐ役割をしっかりと担っていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):介護業界は人材採用が極めて厳しくなっており、実習生の受け入れ人数も減少している傾向がある。現在、外国籍の方が一緒に働いているが、日本人以上に積極性もあり対応力のレベルも高いと感じる。留学生の受け入れも需要があることから、留学生の募集や育成には力を入れていただきたい。
米田委員(全学科):卒業生として誇れるのは、実習などを通して実践を学んだことにより、現場で役に立っていることが多いと感じている。高校時代に行事等でいろいろな経験を体験できていない学生も多いと感じるので、多様性を尊重しつつも、実践での学びを提供してもらいたい。

堤委員(全学科):通信制高校は学生数が増加している傾向がある。その上で新たな学びとしての ICT 教育を浸透させている。専門学校においても引き続き業界に紐づく ICT 教育は取り入れて行って欲しい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・複数の学科を展開しており、それぞれの学科がその業界で求められる人材像やスキルの違いを理解する必要がある。

② 今後の改善方策

・学科ごと策定している育成する人材像（ディプロマポリシー）に重要コンピテンスを定めた。
・入学した留学生に対しての教育目標や教育の施策を業界の方と情報交換をしながら周知する。

③ 特記事項

とくになし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：年1回全職員に向けて理事長による創業の思いを伝える説明会を実施し、理念教育を実施している。浸透を図る為にも繰り返し実施することが好ましい。学校においても、人材育成像は学生はもとより保護者に向けても伝え続けることをしていただきたい。

堤委員（全学科）：通信制で毎日登校しない学生に対して、理念や学校としての考えを浸透できているかは弱い。専門学校で実施されているスタートアッププログラムのようなオリエンテーションを実施し教育理念である「技能と心の調和」をしっかりと伝える機会を設けていることはありがたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・人事、給与に関する制度が2024年から改定されたが、より制度を理解・浸透が必要である。評価制度の理解と求められる役割を適宜認識合わせする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・期初の面談により、役割を明確かつ適宜説明する面談の実施をする。
- ・コンプライアンスに関しては、引き続きの理解を図る研修受講を促す。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：近年、カスハラのようにハラスメントの種類も増え、不当な要求や迷惑行為に発展することも多くなっている。働く側のハラスメントの理解は必要不可欠な時代となっている為、研修の実施はもちろんのこと、日ごろからスタッフ同士のコミュニケーションをしっかりと図り、周りの人への思いやりが実践できる環境や風土が必要である。

堤委員（全学科）：学生が増加していることにより、教職員も増えている。業務を分業したり、シンプルにしたり、意思決定を早くすることで、働きやすい環境や運営を実施している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・学生に年2回実施している授業アンケートにより授業の質向上に努めているが、更に授業の質を向上させる為、教職員同士の授業見学を推奨する必要がある。
- ・教職員の能力開発のための研修を業界の方を招き研修を実施しているが、引き続き、継続して実施することが重要である。

② 今後の改善方策

- ・教科のチーフが教科の課題を理解し、教育の質を上げる教科会を適宜実施する。
- ・業界理解と人材育成目標に向けた授業実施のために教職員の研修参加を促す。

③ 特記事項

とくになし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：自分の意見を人へ伝えることが苦手な方が多いと感じる。自信をもって自分の意見を周りに伝えられるプレゼン能力があると良い。

堤委員(全学科): 集団の中で発表することも苦手とを感じるが、人に何かを伝えるということであれば、個人面談と聞くだけでプレッシャーを感じ、話すことができない学生もいる。それを回避するために、事前に面談の内容を伝え心の準備をしていただき、心理的安全な中で個別に話を聞ける環境を高校は作っている。人に思っていることを伝える経験が必要と感じる。

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・就職の早期化により早期決定が進んでいるが、内定辞退をする学生が問題となっている。
・2024年退学率低減を大きな課題として生徒面談や学習サポートなどの取り組みを実施したが、目標喪失や進路変更等で退学をした学生を多くだしてしまった。

② 今後の改善方策

・就職ガイダンスを実施し、学生の認識と就職先とのギャップをなくし、内定辞退を防止する。
・学習の理解ができずに目標喪失や進路変更に至った件が多くあった。放課後におけるスタディーサポートを実施し、授業の理解が厳しくなった学生に対して早期で理解を深められるようにする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科): 新卒者に関しては、OJT 含め半年間先輩が新人指導に入り、職員とのコミュニケーションまでしっかりとれる状態になって安心して独り立ちをしている。サポート体制が必要と感じる。また、一期生から卒業生をお預かりしているが、人間力といった教育がしっかりなされており、信頼をおいている学校と感じている。

米田委員(全学科): 学生時代に行った実習がとても役に立っている。就職先が実習先と同じであればなお安心した状態で就業でき、就業先が実習先と違っていても様々な就業先を知れた体験がより良い経験になると感じる。

引き続き、施設や病院、卒業生から様々な情報が共有できる機会を提供してもらえると良い。

堤委員(全学科): 専門学校へ送り出す側としては、専門学校の魅力はもちろんのこと、業界や職業の魅力を明確に伝えこの学校では何を学べるかを理解させていただけたらありがたい。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・地域のカウンセリングルームはあるが、利用者が少ない。ハードルを下げ、必要とする多くの学生にその機会を与える。
- ・卒業生への支援体制が整備されておらず、転職求人の斡旋等ができていない。

② 今後の改善方策

- ・カウンセリングルームについて周知をし、誰もが利用できるように体制を整える。
- ・前年度に卒業した学生のフォローアップとして秋に単年の同窓会を実施する。また、2026年度は創立40周年の同窓会を予定しており、今までの卒業生に対して支援やフォローができるように計画している。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

米田委員(全学科):卒業生としては卒業後に近況を報告できる場があり、お世話になった先生方に会える機会ができると嬉しい。卒業後の年数によって、抱える課題があると思うので、同窓会があればお願いしたい支援が見えてくるように思う。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・施設、備品等の老朽化がある。
- ・防災意識や災害が起きた際の備えが必要。

② 今後の改善方策

- ・老朽化した全館のトイレを回収した。
- ・学ぶ環境を整える為に、学生用個人ロッカーを入れ替えた。
- ・年度初めの会議において、災害発生時の避難場所や避難マニュアルの共有を行った。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):介護施設として計画的に整備し訓練を実施している。近年、災害も頻発していることから、防災意識を持たせることはもちろんだが、災害の際にしっかり判断し行動ができるような訓練の実施は重要と考える。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・医療秘書科、医療事務科など医療事務員の養成学科において近年著しく入学希望者が減少している。
- ・介護福祉科、WEB デザイン IT 科においては特に留学生に多く入学していただいていることから、職員の留学生対応のスキルが求められる。

② 今後の改善方策

- ・入学前に、将来を見据え自分にあった職業として医療事務・診療情報管理士・くすりアドバイザーのどの分野の学科を選ぶかが困難になっており、2026 年度募集においては、入学後前期の授業を学びながら、自身の希望する資格や職業を学べるコース選択ができるように「医療事務&くすり総合科」の新設を行った。
- ・留学生と日本人学生との習熟や学びの環境を整える為、定期的に留学生の為の教科担当ミーティングを実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：介護職員の減少が大きな課題と感じている。まずは日本人の方へ介護の魅力を届けるべく、現場で活躍している方が高校や中学校、ハローワークの研修へ出向き講演を実施している。学校においても卒業生などの協力も得ながら、広く介護業界の魅力を浸透いただける協力をいただきたい。

堤委員（全学科）：高校生の親の世代においては、古い時代の「業界の3K」が根付いているように感じる。現在の介護業界の勤務体制ややりがいを直接伝えてもらえる機会があると、この業界へ進みたいと思う学生は増えるように感じる。

米田委員（全学科）：卒業生として、先生方との関わりや学校で得た学びがとても役に立っており誇りに感じている。卒業生の活躍やリアルを伝えることによって募集に繋がると思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・社会、地域貢献に関わる案件に関わるのが少なく課題である。

② 今後の改善方策

- ・学園姉妹校と合同で万国博覧会の人権パビリオンに出展する。
- ・「西中島クリーンアップ」として姉妹校と連携し掃除ボランティア活動を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：介護施設と保育施設が同じ敷地内にある為、貧困家庭に向けての「こども食堂」を開催している。ただし、参加している方を見ると、働くお母さんとお子さんの利用が多く、お母さんにとっての安らぎの場所となっている。価値を感じている為、引き続きの支援をしていこうと思っている。学校としても、何かしらのボランティア活動を社会や地域の為に実施していただきたい。

堤委員（全学科）：通信高校でも今年度はボランティアとして清掃を実施している。地域に愛される学校となるようにボランティアは実施していくことが重要と感じる。

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・留学生の受け入れにおいて大きな成果があったので、適切な運営に努めたい。

② 今後の改善方策

- ・留学生サポート教員を配置し、環境整備に努めている。
- ・海外エージェントと連携し、誠実な留学生の受け入れを実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：現在働かれている外国籍の方は、日本に住んでいる期間も長い為、語学レベルも高く言葉の壁を感じてはいない。今後は、留学生が多く働くことが予測されるため、様々な国の特性を施設側も理解を深める必要があり、専門学校としっかりとした連携をしながら受け入れを検討していきたい。

米田委員（全学科）：特定技能として入職されている（ベトナム・インド・ミャンマー）の方が7名いるが、日本語会話に問題がない方もいれば、そうでない方もおり、職場内において就業後に1時間程度の日本語の研修を取り入れている。日本語は同じ文字で意味が異なることも多く、日本語能力を伸ばす取り組みは必要と感じる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・米田委員(全学科):生徒と先生との距離が近く、いつでもフォローや相談のできる環境や関係性を作っていた。引き続き、そのような環境で後輩指導を実施していただきたい。
- ・岡田委員(介護福祉科):働き出すと、自分の考えを利用者様やその家族、職員に伝えることが必須となる。技術は入社してから更に学ぶことができるが、人と関わる仕事だからこそ、働く上で「心」がとても重要であり、その大切さを学生時代に伝えていただきたい。
- ・堤委員(全学科):通信制の学生の多くは、人の痛みを知っているので、介護業界や保育業界の仕事はとても向いていると感じる。ただ、高校においては、業界で働くやりがいや魅力を伝えることがなかなかできない。だからこそ、業界のリアルを高校生へ伝え、業界の特性ややりがいを知った上での進路選択へのご協力をお願いしたい。
- ・石橋副校長:時代の変化と共に教育環境も変わってきている。個別最適化の教育を提供しつつも本校の教育理念である『技能と心の調和』できる人材の育成が重要かつ必要であると感じた。授業の質を担保し技術や資格を習得させ、さらに社会で活躍できる人材としての「心の教育」にも励んでいきたい。

以上